

外国語科（英語）学習指導案

1. 日時 令和〇年〇月〇日（〇）

2. 場所 〇〇〇教室

3. 学部・学年 高等部 第3学年

4. 単元名 「Lesson 10 Do We Need That? (そのサービスは必要ですか)」

5. 単元目標

- ・題材を通して、生活の中で出会う、いろいろな事柄についての英語表現を身につける。(知・技)
- ・日常的な話題や社会的な話題について、英語を通して得られた情報や考えなどを活用して、自分自身の考えを適切に表現する。(思・判・表)
- ・活動を通して、身の回りのものごとに関心を持ち、自分の考えを伝えようとする態度を養う。
(学・人)

6. 生徒観 略

7. 教材観

この単元で学習すべき文法事項は使役動詞である。特に使役動詞を学ぶことは、英語文法の理解を深めるためには重要である。使役動詞を学ぶ過程では、第五文型を理解することができ、ネクサス（主語と述語の独立した関係）の概念も明確に把握することができる。このことにより、英語の文構造をより深く理解し、より複雑な文を作成する能力が身につくため、この文法表現の定着を図りたいと考える。

教科書の本文は日本で行われているさまざまなサービスについて、「必要・不必要」の立場から意見交換をするものである。その内容を読み取る能力を身につけ、次に「必要・不必要」だと思うサービスについて個々の考えをまとめる。その考えを学習した語彙や文法事項を用いて発表したり、意見交換したりする。この単元をきっかけに、身の回りの事柄に関して「自分にとって必要か不必要か」という視点から、さらに教科横断的に社会や探求活動等で得た知識を合わせ、自分の考えや意見を英語で表現できるよう指導したい。

8. 指導観

授業においては基本的な事項の習得に重点を置き、語彙力と文法事項の向上をめざして取り組んでいる。しかし教員の発問に対して消極的に答える生徒がいる。その原因として、英文の内容理解が十分でないことが挙げられる。語彙自体は理解できていても、文法事項の理解が十分でないため、長文読解での全体部分の理解や日本語訳に困難さを感じている。前後の文脈の読解に大きなズレ（誤訳）が生じることも一因としてある。英語に対して消極的な生徒には、理解しやすいようにイラストを用いて説明し、イラストを使うことで、その英語が表すイメージをとらえる手助けをし、理解が促進され则认为する。3種類の使役動詞(make, have, let)においても、それぞれの持つイメージをつかませながら、さらに、授業内容が実生活にどのように役立つのかを明示し、英語学習への意欲を高めたいと考える。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①使役動詞に関する事項を理解している。 ②使役動詞を用いて誰かに何かをさせてほしいと頼み、英文を正しく書く技能を身につけている。 ③教科書を読み、本文の内容を理解している。	①写真やイラストを見てふさわしい表現を選択しながら適切に自分の考えを伝える。 ②使役動詞を使って自分の意見を英語で表現する。	①自分の気持ちや考えを伝えるために、使役動詞を用いて英文を書いたり、ペアで話し合ったりしようとしている。 ②自分の考えを述べたり、発表したりするために必要な情報を積極的に得ようとしている。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全7時間、本時は第2時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	・話題の背景、本単元で扱う話題についての導入説明 ・新出単語	・教科書の写真を見て、意見交換をする ・単語の発音、意味を確認する。	・プレゼンテーションソフトに映す新出単語にはカタカナでルビをつける。	・B① ・C②
2	2	・文法事項の説明 （本時）	・プレゼンテーションソフトを使用して、「使役動詞」を学ぶ。 ・使役動詞を用いた英文を作成する	・プレゼンテーションソフトで展開するのみの授業にならないよう、生徒に考えさせる時間を作る。	・A② ・B② ・C①
3	3 4 5 6	・話題の読解	・本文を読む。 ・本文内容理解。 ・サービスの必要性を考える。	・発音が分からない単語にはカタカナやルビを書く。 ・新たに出会う文に対して、完璧な和訳でなくとも一度、自分なりの訳を考えさせる。	・A① ・A③ ・C②
4	7	・振り返り	・本文の内容についての正誤問題。 ・必要・不要だと思うサービスについて考えをまとめて書き、発表する。	・考えた内容を英語で発表できるよう支援する。	・A③ ・C① ・C②

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・使役動詞を用いて誰かに何かをさせてほしいと頼み、英文を正しく書く技能を身につける。
(知・技)
- ・自分の気持ちや考えを伝えるために、使役動詞を用いた英文を書いて発表することができる。
(思・判・表)

(2) 本時の評価規準

- ・使役動詞を理解し、英文を書いている。【A②】
- ・自分で作成した文を、使役動詞を用いた英文で表す。【B②】
- ・作成した英文を他の生徒や教員に伝えようとしている。【C①】

(3) 本時で扱う教材・教具

プロジェクター、スクリーン、パソコン、プリント

(4) 生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び 支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
10分 導 入	・あいさつ ・本時の流れ ・目標を確認 ・使役動詞についての語彙説明	・「使役」という語彙の意味を想起し易くなるようにイラストを用いて説明する。	
35分 展 開	使役動詞の文法説明 ・日本語の使役用法の違いを理解する。 ・使役表現のない文を確認する。 ・使役表現の文を確認する。 ・使役者と使役の対象者の違いを理解する。	・使役の「させる」と「してもらう」の2種類の違いは何かを問う。この発問を通して、英語の表現方法を考える。 ・動作主が自己完結する文を、時間軸を用いた図を利用して説明する。 ・英語における使役動詞を、時間軸を用いた図を利用して、使役者と使役の対象の関係にポイントを置いて簡潔に説明する。 ・使役の対象がネクサス（主語と述語の独立した関係）の関係であることを促す。	C①

	・使役動詞がどのような時に使われる表現であるかを説明する。 (make, have, let) ・“to”を用いる依頼文との違いを確認する。 ・自分で使役表現の文を作成し、英語で発表する。	・それぞれの違いをイメージしやすいようにイラストや図を使用する。 ・クイズ形式で(make, have, let)の違いを確認する。 ・依頼の文(ask)や(get)の使役分を提示し、他の使役の用法と比較を促すことで、不定詞と原形不定詞の使い方に関する気づきを促す。 ・机間指導をして、内容理解ができているか、文章を作ることができるか確認する。	A①、C② A②、B②、C①
5分 ま と め	・まとめ ・あいさつ	・スライドで簡潔にまとめたものを提示する。	

(6) 教室配置等（正面を上にして、生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

